

二〇二一年度

入学試験問題

(二月五日午前)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙九ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上、省略した部分があります。)

これまで何本もドキュメンタリーを制作してきましたが、わたしの場合、「これが専門分野」と言えるものはありません。①心動かされるままに取材をしてきた、といった感じでしょうか。読者のみなさんは、これまでの章でお伝えした四つ^{※注1}の番組について読む中で、何か共通するものを感じたでしょうか？

わたしがいつも気にかけていたのは、「命」ということではなかったか、と最近になって気がつきました。

命はなにものにも代えがたい、かけがえないものです。その命が不条理な理由で奪^{うば}われたりするようなことがあったら、本人の無念さはいかばかりでしょう。そして、どれだけまわりの人が悲しみ、苦しむでしょうか。あるいは生きている一人ひとりがその尊厳や誇^{ほこ}りを傷つけられたら、どんなに辛^{つら}いでしょうか。生きる力さえ奪^{うば}われてしまうことだってあります。記者になってから、その現実によく触^ふれ、ずっと考えてきたように思います。そうした現実を②どうしたらより深く伝えられるか？そのことと格闘^{とう}してきたように思います。

他方、番組の放送後に、「aこんな暗い話ばかり伝えて何になるの？」と視聴者^{ちよう}の方から厳しいご意見をいただいたこともあります。番組が伝える現実があまりに深刻で、すぐに明快な解決策を見いだせる状況^{じようきよう}ではないため、ときに重苦しいと感じる映像もあったからでしょう。報道ドキュメンタリーの場合、たとえばスポーツ選手^{せんしゆ}の苦楽を追った番組のような「さわやかな感動」はなかなか届けられません。しかし、どしんと重い映像、番組も、テレビの中にはあるべきだと思っています。それはわたしたちの暮らしの中にある偽^{いつわ}らざる現実だからです。しかもそこに映し出されたものは、当事者の方たちが抱^{かか}える思いのほんの一端^{たん}でしかありません。ほんの少しでも、アわたしたちがその思いを共有する必要があるのではないか…、そんな思いで取材を重ね、番組をつくり、放送してきました。そこから、よりよい明日へとつなげる力が生まれてくるはず、と信じているからです。

ひとつの報道でがらりと世の中を変えることなんてそうそうできることはありません。でもせめて、番組の中のいくつかの映像がある場面が、いえ、たったワンカットでもいいから、観^みた人のところにひっかかり、ここに深く長く残るように伝えたい…。そう思つて、一つひとつの番組をもがきながらつくってきた、というのが正直なところですよ。

もがくなかで、気づかされたのは、共感^{きんかん}するところの大切さです。マリーサに言われた厳しい一言が原点です。こちらがどんなに共感しているつもりでも、相手が置かれた状況^{ききよう}や気持ちをわかってほしいと、相手のことを理解するどころか、傷つけてしまうことだつてある。代弁者になどとてもなれない。そう教えられました。

記者に求められるものはほかにもあります。「^③厳しさ」と「^④優しさ」。駆け出しの頃先輩に教えられました。

テレビを観る人が現実をしつかり見つめるためには、報道が正確でなければなりません。正確に伝えるためには「厳しさ」が必要です。取材に対してどんなに横やりがあっても、大きな声や力に押し流されそうになっても、勇気を持って伝える強さと厳しさ。自分がそれを持っていないと、記者が真実をゆがめることに加担することになりかねません。「強い信念」と言いかえることもできます。

実際、ドキュメンタリー番組の制作を進める中で、^①わたしたちの職場に直接訪ねてきたり、あるいは郵送された手紙で、「放送しないよう」強く求められたこともあります。

こんなときにも、波風（ ）ないように、などと考えてゆらぐわけにはいきません。わたしたちに声を託してくれた人が実際にいるからです。その人は、目の前にいるわたしだけに話したのではなく、^⑤カメラのレンズの奥に広がる、たくさんの人たちをみていたはず。託された思いを裏切ることなんてできない！とふんばらなければなりません。

そうした確固たる思いを持てるようにするには、どうしたらいいのでしょうか。とことん取材をするしかありません。あいまいなまま報道したり、感情に押し流された報道をすれば、事実を見失い、伝える内容の信頼性を失ってしまいます。その結果、取材相手からの信頼を損なうことにもなってしまう。冷静に事実に向き合う「厳しさ」が必要です。

もう一つの「優しさ」。それは、人と向き合うときの姿勢です。テレビカメラを向ける行為そのものや、不特定多数の人に向けて放送することは、誰かを傷つけてしまう危険もはらんでいます。それだけに記者には、どんな人に対しても、人として尊重する姿勢と謙虚さが求められています。プロとしての「厳しさ」と「優しさ」、どちらが欠けてもいけない、ということは、ずっと自分に言い聞かせてきたことです。

こうした心構えを頭では理解できるようになっても、現実を前には悩むことばかりでした。「ここに残るワンカット」にどこまでこだわるのか、なぜこだわるのか、それがとても難しいのです。

(中略)

仕事を続けるうち、何人かの方から「東京に出てこないか？」と声を掛けていただいたことがありました。^b東京はいろんな情報が集まってくるし、ドキュメンタリーづくりを専門にしている制作会社もたくさんあります。仕事や取材の幅がひろがるのではないかとたくさんドキュメンタリーがつかれるようになるのではないかと、発信する機会が増えるのではないかと、と勧め下さったのです。でもそれは自分がやりたいこと、やりたい仕事ではないような気がしてずっと地方にいました。

わたし自身は、ローカル局にいて、毎日のニュース取材の中からテーマに出会い、そしてドキュメンタリーをつくるというスタイルが気に入っていました。日頃から喜怒哀楽を共にしている「わたしたち」というコミュニティーの中から「cおらが町の「大事」や「わたしの「大事」を丁寧ていねいに取材していくことを通して、わたしたちの地域がより暮らしやすくなるように、地域の人たちのよりどころとなる報道がしたい、と思っていたからです。

同じように考えている同僚や技術スタッフがたくさんいましたし、NNN（日本テレビ系列局でつくるニュースネットワーク）の各局が制作参加し、d毎週日曜日の深夜に放送している『NNNドキュメント』では、全国各地に散らばるネットワーク局に、やはり^⑥同じような気持ちで日々の仕事にとりくんでいる記者がたくさんいます。ドキュメンタリーの企画を全国から持ち寄って意見交換する会議では、大いに励ましあいました。また、同じく名古屋を拠点にする他のテレビ局の記者やカメラマンたちからも、刺激を受けました。全国のあちこちで仕事をする「仲間たち」の存在は、苦しいときや悩んだときの支えでしたし、その交流の中で、自分はどうな報道を目指すのか、と追求するようになっていきました。

ニュースにしろ、ドキュメンタリーにしろ、ウわたしたちの姿を伝えるわけですが、当然ながら、放送した内容については、賛同もあれば、批判や反対の声もあります。大切なのは、問題の解決方法を立場や意見の違いをのりこえて探さぐっていくこと、そして結果として、社会を「いま」よりもよい方向へすすめていくことです。

そのためには、日本のあちこちから、いろんな人が「〇〇ならではの視点」でいまを照らし出していくことが、社会にいろんな気づきを生み出すことにつながる、と思っっています。

（大脇三千代『社会の今を見つめて』ドキュメンタリーをつくる』より）

注1 四つの番組……筆者は、トラック運転手の居眠り運転による交通事故を取材した『大人の説明』・戦争体験を語り継ぐ女性を取材した『郵便兵と絵手紙』孫娘が語り継ぐ祖父の戦争』・産婦人科医師の人手不足の実態を取材した『消える産声』・『マリーサの場合』の四つの番組について、四つの章で紹介している。

注2 マリーサの一言……マリーサは筆者がドキュメンタリー番組『マリーサの場合』制作の際に取材した不法滞在のフィリピン人女性で、筆者はマリーサの境遇を理解しているつもりだったが、「日本人のあなたにはわからない」と強く言われたことがあった。

問一 — 線部①「心動かされるままに取材をしてきた」とありますが、筆者が心動かされたことは何ですか。本文中から八字で抜き出して答えなさい。

問二 — 線部②「どうしたらより深く伝えられるか？」とありますが、それはどういうことですか。本文中から十七字で抜き出して答えなさい。

問三 — 線部③「厳しさ」、— 線部④「優しさ」とありますが、それぞれを二十字以内で説明しなさい。ただし、次の語群の言葉をどちらかの説明に一度ずつ必ず使いなさい。

冷静 尊重 謙虚 勇気

問四 — 線部ア～ウ「わたしたち」のうち、一つだけ対象が違うものを選び、記号で答えなさい。

問五 本文中の（ ）にあてはまる表現としてふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア の知ら イ を立て ウ に乗ら エ が騒が

問六 ——線部⑤「カメラのレンズの奥に広がる、たくさんの人たち」とありますが、この人たちのことを何と言いますか。本文中から漢字三字で抜き出して答えなさい。

問七 ——線部⑥「同じような気持ち」とありますが、どのような気持ちですか。本文中の言葉を使って、次の（ ）にあてはまるように、二十字以内で説明しなさい。

（ ） という気持ち。

問八 次のア～エのうち、筆者の姿勢について述べたものとして正しいものには○、正しくないものには×を答えなさい。

- ア 報道ドキュメンタリーは、現実をそのまま伝えなければならないので、なるべく重苦しくならないようにところがけている。
- イ テレビカメラを向けるという行為は、それ自体が相手を傷つけることにもなりかねないということを意識している。
- ウ 制作現場にはさまざまな考えを持った人がいるので、同じ意見を持った人と共に支え合いながら番組をつくっている。
- エ ひとつの報道番組で世の中を変えることはできないが、いくつも積みかさねてつくっていくけばいつかは変えられると信じている。

問九 ……線部 a～d の表現について正しくないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア a 「こんな暗い話ばかり伝えて何になるの？」という表現は、実際の言葉をそのまま示すことで、現実味を感じさせる。

イ b 「東京はいろんな情報が集まってくるし」の中で「いろんな」は正しくは「いろいろな」と表現するべきところだが、誘ってくれた人の口調を思い出してそのまま書いたもので、筆者のその人への感謝があることを感じさせる。

ウ c 「おらが町の一大事」という表現は、地方の話題だということを強調していて、ユーモラスにも感じさせる。

エ d 「毎週日曜日の深夜に放送している『NNNドキュメント』では」という表現は、実際にある番組の名前をそのままあげていて、読者にとってイメージしやすいような工夫を感じさせる。

問十 あなたが今まで見た報道ドキュメンタリーの中で心に残っているものをあげ、心に残った理由もあわせて二百字以内で書きなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

キノウアニノタンジヨウビトソフボノケイロウノヒヲカネテカゾクデシヨクジ

カイヲヒラキマシタ。ソボハミズカラトクイノリヨウリヲツクツテクレテソフ

ハワタシタチマゴノゲームタイカイノケイヒンヲキフシテクレマシタ。ワタシ

モイモウトモコノシユクフクノカイニビンジヨウシテマンゾクノイチニチヲス

ゴシタノデス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 利害得失を考えろ。
- (2) 数学は不得手だ。
- (3) 羊皮紙に歴史を記す。
- (4) 審判がアウトを宣告する。
- (5) そのドラマの評価は賛否両論に分かれた。
- (6) きれいな宝石のユビワをはめる。
- (7) トウヒヨウに行こう。
- (8) ネンガンの演奏会にでかける。
- (9) フクシヨウとして図書カードをもらった。
- (10) 講演会の話をロクオンする。

四

次の(1)～(5)の三字熟語の構成を後のア～ウからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 無気力

(2) 温度計

(3) 英会話

(4) 天地人

(5) 紙一重

ア 二字熟語が一字を修飾している

イ 一字が二字熟語を修飾している。

ウ 三字が並列している

